

「沖縄の農業ブランド」第10回セミナー

「今年度総括・次年度計画とコーヒー園見学会」報告

日 時:セミナー 平成22年12月11日(土)午前10時~12時
見学会 同午後1時~4時
場 所:セミナー 沖縄市コリンザ3階NPO法人 ウヤギー沖縄事務所
見学会 那覇市古波蔵 株式会社名護珈琲事務所
及び南城市 株式会社名護珈琲 南城コーヒー園
参加者:15名

今年度の総括としては、セミナーの実施では予定を上回る10回となったが、参加者は予定を若干下回る401名の参加となった。このセミナーが沖縄の農業関係者に与えた影響は大きく、主催者側も沖縄農業の問題点を知ることとなった。また参加者に「コミュニケーションがうまくとれないため、なかなか仕事に就けない若者が沖縄にも多く、彼らの仕事として農業関係が適していることの認識も高まった。更に参加者同志の交流も盛んになり、特に参加者に定員を設けてワークショップ形式で行った「農商工連携具体化セミナー」では、親近感が増した。青空市場という形での東京における販売は沖縄の農業関係者にとって新発見となった。

前回のセミナーの後、講師の西尾氏から以下のような提案があったので、紹介しておく。

ブランド農業を育て、告知していくためのプラン

日本コミュニケーションセンター 西尾 竜一

1、告知における課題

農家の方々が高齢なため、昨今の「6次産業化」に対応できない。

→ITスキルの不足により、ネット販売等に参入できない。

2、ウヤギー沖縄の財産

ニートの若者、大学生などの若年者との関わりがある。

→ITスキルをある程度持った若者に、重点的にスキルアップできる。

3、提案

農家の方々×若者によるネット販売コラボレーション

①農産物の告知ブログの更新

②ネット販売に対応する様々な実務

→このスキームをウヤギー沖縄が構築する。

この提案を紹介したところ、ITスキルのある若者が手伝ってくれるなら、自分たちの農産物のネット販売の可能性がずっと近づいたと、大喜びであった。そこで今まで育ててきた農産物を更に改良、拡大し、ネット販売に耐えうるように備えることで一致した。

近藤理事長から第2のテーマであるコーヒー園の趣旨説明があった。

「前回施設見学を行ったテクノロジーセンターの新屋敷氏から、『11月19日に農業の6次産業化に関する研修があるので参加しませんか』というメールが入り、参加したところ、『名護珈琲』の藤田社長と会い、意気投合し、沖縄で純国産コーヒーを栽培すればブランドになるのではと考え、まずは彼のコーヒー園を見学したい」ということであった。沖縄の人でも、沖縄でコーヒーが採れることを知らない人も多く、6人が3台の車に分乗して那覇に向かった。

名護珈琲の事務所は那覇にあり、ここで乾燥、焙煎をしている。事務所前にはコーヒーの木が数本あり、丁度コーヒーチェリーが色づいていた。中に入ると名護珈琲を入れてくださり、おみやげ用のお菓子もご馳走になった。コーヒーリキュールもどうぞと言われたが、運転するのでと言うと、お土産にしてくださった。その後藤田氏の案内で南城市に向かった。

名護珈琲のコーヒー園は名護と南城にあり、南城の方が交通の便が良いとのことで案内された。コーヒー園はそれほど広くはないが、良く手入れされており、有機農法でも虫は付かないという。コーヒーの木は3m×3mに1本ずつ植えられている。芽が出てから5年で実がなり、10年目くらいが1番多く収穫できるという。

コーヒー栽培は比較的楽だということで、「皆でコーヒー園をやろう」という話で盛り上がった。藤田氏は沖縄に来て35年だというが、氏は「沖縄のコーヒー栽培の先駆者たちは皆亡くなり、今栽培している人は20人くらいしかいないので、皆様も是非コーヒー園を作って、コーヒー農家の組合を作りたい」という呼びかけもあった。そこでこの件も次年度の予定に入れることとなり、夢の膨らむコーヒー園訪問となった。



コーヒー園と加工場の様子